

ダイフクPROFILE  
2023

ダイフク  
PROFILE  
2023

会社概要	1
社是・経営理念	2
マテリアルハンドリングとは	3
沿革	4
中期経営計画「Value Transformation 2023」	14
6つの事業とダイフクの強み	17
主要製品	18
知的財産活動	26
業績推移(連結)	27
株式情報	32
サステナビリティ	34
情報開示	40
コーポレートガバナンス	41
役員一覧	44
グローバル展開	48
国内拠点・海外支店	49
海外現地法人	50
業界情報	52
日に新た館	53

事業	マテリアルハンドリングシステムの総合メーカー 物流ソリューションの提供など
商号	株式会社ダイフク(Daifuku Co., Ltd.)
設立	1937年5月20日
資本金	318億65百万円(2023年3月31日現在)
代表者	代表取締役社長 下代 博
従業員数	13,020人(グループ計/2022年度末)
本社所在地	大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11 東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383) (「JPX日経インデックス400構成銘柄」に選定)
格付	発行体格付 A[ポジティブ] 短期債格付 a-1 (格付投資情報センター(R&I))
2022年度業績	(2022年4月1日～2023年3月31日)
連結売上高	6,019億22百万円 海外売上高比率 67% サービス売上高比率 26%
営業利益	588億54百万円
年間配当金	1株当たり110円

(注)1 文中の金額:単位未満の端数を切り捨て  
2 文中のパーセンテージ:一部四捨五入し、合計が100%となるよう表記



本社(大阪)



東京本社

〈社是〉



Hini Arata

今日の「われ」は  
 昨日の「われ」にあらず  
 明日の「われ」は  
 今日の「われ」にとどまるべからず

〈経営理念〉

## モノを動かし、心を動かす。

ダイフクは、マテリアルハンドリングを核とする「モノを動かす技術」で、心豊かに生きられる社会を創造します。

私たちは、

- (1) 人と環境への負荷を最小化し、人権の尊重と責任あるものづくりを実践することで、持続可能な社会の実現に貢献します。
- (2) 世界のお客さまと誠実に向き合い、革新的技術と最適最良のソリューションでスマート・ロジスティクスを実現します。
- (3) 多様性を尊重する自由闊達な企業風土のもと、一人ひとりが変革に挑戦します。同時に、経営基盤を強化し透明性の高いグローバル経営を行います。

〈グループ行動規範〉

### 基本姿勢

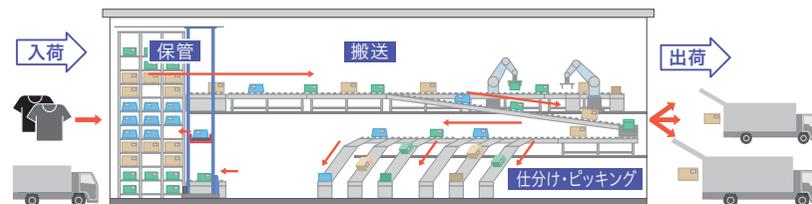
- ・私たちは、法令・社会規範や倫理に照らして、正しく行動します。
- ・私たちは、事業活動のあらゆる局面において、なによりも安全を優先します。
- ・私たちは、「日新」の気持ちを常に忘れず、たゆまぬ挑戦と変革を続けます。

マテリアルハンドリング(マテハン)とは、「モノを効率的に保管、搬送、仕分け・ピッキングする」ことです。それらの機能を持つ機械設備と、設備の動きを制御・管理するソフトウェアを組み合わせ、スムーズなモノの流れをつくる仕組み(自動化技術)を「マテハンシステム」と呼びます。

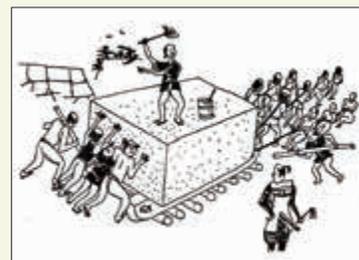
マテハンシステムを活用することで、重労働や反復作業を軽減でき、新たな価値を生み出すことができます。

ダイフクは、保管、搬送、仕分け・ピッキング用の主要製品を自社生産する世界有数のメーカーとして、またシステムインテグレーターとしてお客さまの多様なニーズにお応えしています。

### 配送センターのイメージ図



### 古代ギリシャ時代に発祥、機械学のベースとなる



動力を人力に頼っていた時代のマテハン  
 (巨石の運搬)

出典: 運搬機械の前衛 ダイフク

人類にとって、重い荷物をどう運ぶかは永遠のテーマです。

人間が定住を始めて以降、長く人力や牛馬の力に頼っていましたが、古代ギリシャ時代に数学や力学が盛んになる中で、「重いモノを動かす学問」として機械学が発祥しました。マテハンが、機械工学の源となったわけです。

その後、産業革命を通して蒸気・電気などのエネルギーを得て道具が設備に発展、20世紀後半にはコンピュータと結びついてより進歩しました。

事業環境	第2次世界大戦		焦土からの再建		高度成長期			
年	1937年	1939年	1944年	1947年	1957年	1963年	1964年	1966年
トピック	(株)坂口機械製作所として創業	御幣島工場(現大阪本社)を建設	総合商社の傘下入り、兼松機工(株)と改称	大福機工(株)に改称*	米国Webb社と技術提携			わが国初の自動倉庫
製品	鍛圧機械 起重機			港湾荷役運搬機器	チェンコンベヤ	ポウリングマシン	無人搬送車	建屋一体型パレット自動倉庫「ラックビルシステム」
経営指針	1946年 契約は必ず守り、納期厳守。製品に責任を持ち、アフターサービスを充実させる。人材、特に技術者を集める。				ウェブコンベヤを担いで自動車と心中しよう	社は「日新」を制定		[太字:現在も生産]
提供価値					自動車の大量生産	電機、化学などの工場自動化		
スローガン	荷役運搬機械武芸百般				マテハンの大福		無人への挑戦	

※大阪と福知山に工場があったこと、中国語でめでたい言葉であることなどから命名。

## ▶ 創業

1937年5月20日、ダイフクの前身である株式会社坂口機械製作所を創業。主に圧延機、エアハンマー、製鉄用の鍛圧機械(写真右下)や各種起重機を製造していました。

1939年、主力の工場を大阪市西淀川区御幣島に建設しました(現大阪本社)。



1939年ごろの御幣島工場



鍛圧機械

## ▶ 社是「日新」

今日の「われ」は昨日の「われ」にあらず  
 明日の「われ」は今日の「われ」とどまるべからず

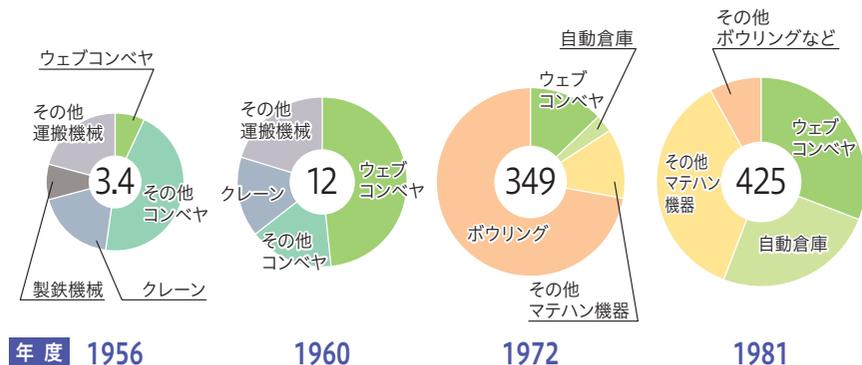
社は「日新(ひにあらた)」は、ダイフクの開拓、開発意欲に燃える企業精神が表現されており、社員の心の支え、行動原理になっています。

基になったのは、紀元前16世紀頃、中国最初の王朝・殷の創始者・湯王(とうおう)が自らを鼓舞した逸話です。湯王は、「苟日新、日日新、又日新」の言葉を洗面器に刻んで毎日三度唱えて自戒し、数百年続いた王朝の基礎を築きました。これは、「今日の行いは昨日よりも新しくよくなり、明日の行いは今日よりも新しくよくなるように修養に心がけねばならない」という意味です。

事業環境	高度成長期 レジャーブーム		ボウリング ブームの終えん	安定成長期へ	世界一の 自動車生産国に	「ロボットが ロボットを作る」			
年	1969年	1971年	1973年	1975年	1980年	1984年	1986年	1987年	1991年
トピック	ボウリングの利益で コンピュータや開発に 積極投資		わが国初の 冷凍自動倉庫	(株)コンテック設立 滋賀事業所の 操業開始	初の現地法人 を米国に	株式会社ダイフク に改称			
製品	オンライン制御 自動倉庫 バッテリーフォークリフト	ユニット式 パレット自動倉庫 (18ページ)	自動仕分け機 中・軽量棚 「テレリフト」(9ページ)	洗車機(25ページ)	自動車工場用モノレール式 搬送システム「ラムラン」 半導体生産ライン向け搬送・ 保管システム(22ページ)	デジタル表示式 ピッキングシステム (19ページ) ケース自動倉庫 (18ページ)	チェンレス搬送 システム(23ページ)	ローラコンベヤ [太字:現在も生産]	
経営 指針	成長と充実		省力化は第3次産業でも 必要である						
提供価値	消費生活レベル向上		スーパーや図書館の自動化		半導体工場の自動化				
スローガン	FA*のダイフク				Advanced FA*				

※FA: Factory Automation

### ▶ 事業ポートフォリオの革新(機種別売上高) (億円)



ダイフクは、第2次世界大戦後の混乱期、高度成長から安定成長への転換期で大きな試練を乗り越えてきました。

1957年、創業製品のクレーンや製鉄機械に見切りをつけ、1960年度には米国Jervis B. Webb Company (Webb社)が開発したチェンコンベヤを中心とする体制を確立しました。Webb社は1919年創業で、米国のモータリゼーションを支えてきた老舗企業。後に当社グループの一員となります。

1972年度、ボウリングマシンが売上高の72%に達しました。ボウリングマシンは構造的にマテハンの応用で、コンベヤなどの受注品と異なり、計画生産品であることが経営上の魅力。ボウリングブームに乗って急成長しましたが、ブーム終息後は、本来のマテハンシステムに特化した事業活動に回帰しています。

事業環境	アジア経済危機	インターネットの普及		グローバル化	リーマン・ショック	
年	1994年	1995年	1999年	2002年	2007年	2008年
トピック	日に新館オープン (53ページ) ISO 9001認証始まる	韓国にCFI※を 設立	滋賀・小牧事業所が ISO 14001認証を取得		滋賀事業所を世界最大級のマテハン生産拠点に 米国Webb社を完全子会社化 世界の生産拠点で ISO 9001と14001を取得	
製品	小物高速自動仕分け機 世界初の非接触給電システム	自動搬送式納骨堂 (10ページ)	第5世代液晶パネル 搬送システム	自動車塗装システム 「E-DIP」	高能力ケース自動倉庫 「DUOSYS」	
経営指針	広く国内外に、最適・最良の マテリアルハンドリング システム・機器および電子 機器を提供し、産業界の 発展に貢献する。			世界最適地生産 最適地調達	質、量ともに世界No.1の マテハン企業へ	[太字:現在も生産]
提供価値					環境にやさしい、安全で、安心な商品・システム	
スローガン	Logistics Navigator	IT革命・物流革命に 挑戦するダイフク		Material Handling and Beyond モノを動かす。心を動かす。		

※CFI: Clean Factomation, Inc.

### ▶ 時代のニーズに即した業種別売上高

(億円、( )内は構成比)

年度	1996※	2005	2009	2013
業種	FAの高度化	液晶の普及	航空旅客の増大	eコマース本格化
自動車・自動車部品	257(20%)	542(27%)	237(15%)	589(24%)
エレクトロニクス	242(19%)	637(32%)	456(30%)	593(25%)
その他製造業	377(30%)	263(13%)	264(17%)	332(14%)
商業・小売	145(12%)	304(16%)	280(18%)	459(19%)
運輸・倉庫	94( 7%)	141( 7%)	92( 6%)	84( 3%)
空港	- ( - )	- ( - )	104( 7%)	205( 9%)
その他	156(12%)	98( 5%)	106( 7%)	153( 6%)
合計	1,273	1,988	1,542	2,418

※1996年度のみ単体売上高

ダイフクは、ノウハウや技術を蓄積、ミックスし、新しい産業分野に応用することで、イノベーションを継続しています。

1980年代、半導体工場のクリーンルーム向け搬送システムの需要が急増。中核機種の天井走行モノレール(写真上)は、病院のカルテや検体、図書館の蔵書、空港の書類などの搬送に使われる「テレリフト」(写真下)を発展させたものです。

2000年代には、液晶パネル工場向けのシステムを、また2007年には、M&Aで空港向けシステムを加えました。

近年は、商業・小売や運輸・倉庫分野の売上高が年々拡大。コンビニエンスストア、総合スーパー、医薬卸、百円ショップ、eコマースなど、幅広い流通形態に合ったシステムを開発しています。



事業環境	東日本大震災	中国のGDPが世界2位に	新興国生活水準の向上	ネット通販の普及		
年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
トピック	北米事業統括会社(現DNAHC※)を設立		米国Wynright社を完全子会社化 滋賀県最大級メガソーラー完成	国連グローバルコンパクトに署名		
製品	世界最速の空港手荷物搬送システム(24ページ) 高能力デジタルピッキングシステム「eye-navi」	調剤監査支援システム(写真1) 半導体工場向け窒素パージシステム 高能力ケース荷揃えシステム(18ページ)		エリア管理システム 高能力ケース自動倉庫「スマートストックークアトロ」 部品物流向け一時保管・仕分けシステム(23ページ)	電動フォークリフト向け非接触充電システム(写真2)	[太字:現在も生産]
経営指針	「5つの新しい」に挑戦(市場・製品・生産方法・グローバルパートナー・事業)	“オンリーワン”を生み出そう	安全はトッププライオリティ。安全文化を世界に広げる		真の世界No.1 マテハングローバル企業へ	
提供価値		お客さまの競争優位性を押し上げる				
スローガン	Always an Edge Ahead					

※DNAHC: Daifuku North America Holding Company

## ▶ 幅広い分野で活躍するマテハン

ダイフクは、これまでに培ったノウハウを活用し、世界の幅広い産業界にさまざまなマテハンシステム・機器を提供しています。

### ダイフク公式チャンネル「D-Tube!」

当社公式のYouTubeチャンネルで、さまざまな製品や導入事例の動画をご覧くださいませ。

([www.youtube.com/user/daifukuchannel](http://www.youtube.com/user/daifukuchannel))

### 寺院・霊園

都市部の墓地不足を背景に、多様なモデルを開発・提供しています。



自動搬送式納骨堂

### 調剤薬局

画像認識と重量検品を組み合わせ、投薬ミスを防止します。



(写真1) 調剤監査支援システム「audit」

### 工事・物流現場

バッテリー駆動の電動車両への充電を非接触で行います。



(写真2) 電動フォークリフト向け非接触充電システム「D-PAD」

事業環境	物流現場の人手不足		新型コロナウイルス感染症拡大			
年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
トピック	資本金318億円に	ファーストリテイリング社と「戦略的グローバルパートナーシップ」締結	インドVega社を完全子会社化 空港事業向けソフトウェア関連企業2社を子会社化 TCFD提言への支持を表明		ドイツAFT <sup>※</sup> 社と業務提携	(株)コンテックを完全子会社化 日に新た館がリニューアルオープン 米国空港向けシステムの新工場が稼働開始
製品	第10.5世代 液晶生産ライン向けシステム 「クリーンストッカー」	ドライブスルー型 トラックステーション 「TRTS(トータス)」			超高密度パレット 自動倉庫「シャトルラックD <sup>3</sup> 」	[太字:現在も生産]
経営指針			スピード感のある改革	グローバル競争力の強化		
提供価値	お客さまが求めるスマート・ロジスティクスの提供			持続可能な社会の実現に貢献		
スローガン	Automation that Inspires					

※AFT: AFT Industries AG

## 日に新た館がリニューアルオープン

世界最大級のマテハン・ロジスティクスの体験型総合展示場「日に新た館(滋賀事業所内)」は、新型コロナウイルス感染症の影響による休館期間中に大規模なリニューアルを実施し、2022年6月にグランドオープンしました。

自社で開発・製造した自動倉庫やAGVなど、最新のシステム・機器57種を新たに展示したほか、個々の製品の納入事例や現場での活用方法など、大型ディスプレイを使った映像で紹介することも可能となりました。お客さまに当社の先進技術・システムの優位性を体験していただくとともに、課題解決に向けたソリューション提案を行います。



リニューアルされたシステム(ロボットビークル)

## 米国空港向けシステムの新工場が稼働開始

2022年10月、米国ミシガン州ボインシティにグループ会社のJervis B. Webb Companyの新工場が竣工しました。これまで米国内に分散していた工場を1つに統合して製造プロセスを一体化することで、より効率的な生産体制の構築を図りました。

投資金額:2,600万米ドル

敷地面積:約8万9,000平方メートル

建物面積:約2万900平方メートル



米国空港向け新工場

## ▶「Value Transformation 2023」コンセプト

### 1. DX<sup>2</sup>による提供価値の変革

$DX^2 (DXスクエア) = Digital Transformation \times Daifuku Transformation$

DX(Digital Transformation)を推進するとともに、ダイフクグループ自身の変革(Daifuku Transformation)に取り組み、お客さまをはじめとするステークホルダーに対する提供価値を変革していきます。

### 2. ニューノーマル(新常态)下における新たな価値創造

前例にとらわれない柔軟で創造性豊かな発想力と既存の枠組みを変革していく実行力により、新たな価値創造が求められる社会において更なる飛躍を目指します。

### 3. 持続可能な社会への貢献

ESG(環境・社会・ガバナンス)やサステナビリティ(持続可能性)などへの取り組み推進の観点から、ダイフクグループでは、中期経営計画とサステナビリティアクションプランを経営戦略の両輪に位置づけ、それらの実行を通してSDGs(国連の持続可能な開発目標)の達成に貢献していきます。

「Value Transformation 2023」の概念図



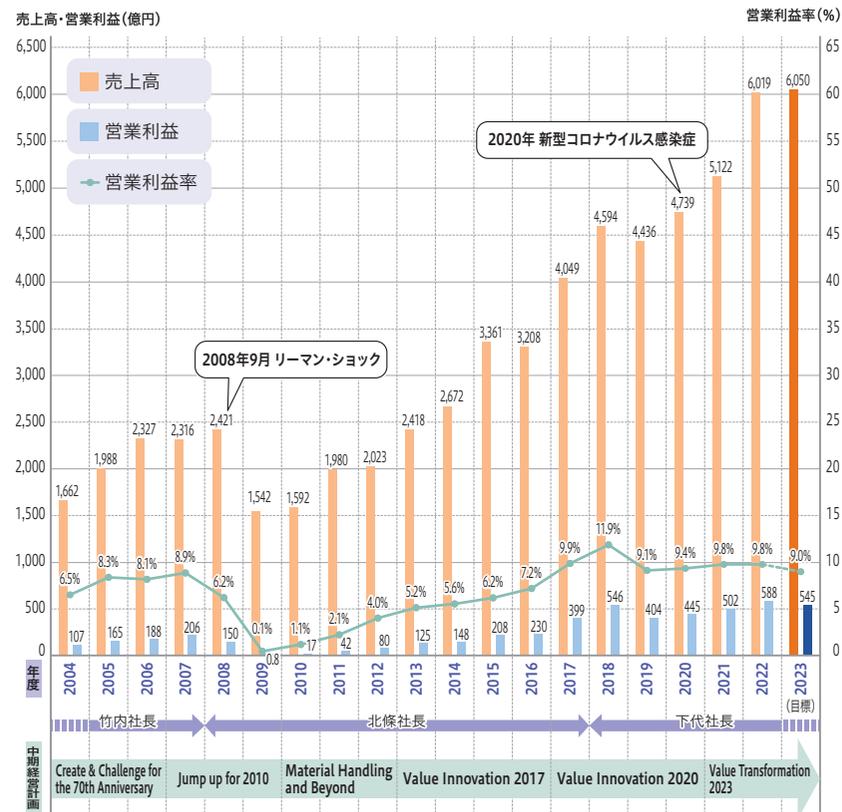
## ▶ 経営目標

「Value Transformation 2023」最終年度(2024年3月期)の目標を、売上高6,000億円、営業利益率10.5%、ROE10%以上(各年度)としていましたが、半導体関連の一時的な投資抑制、インフレ・人件費高騰など昨今の事業環境の変化を踏まえ、売上高と営業利益率については以下に修正しました。

売上高 **6,050億円**  
営業利益率 **9.0%**

株主さまへの利益還元策としては、2021～2023年度の3カ年の平均で連結配当性向30%以上を目指します。

## ▶ 売上高・営業利益の推移



▶ テーマと事業戦略

背景となる外的・内的環境

市場環境

- ・eコマースのグローバルでの拡大
- ・自動化ニーズの多様化

事業領域

4つのテーマと事業戦略

- 1 グローバル化の加速  
→グローバル市場への戦略的投資
- 2 既存事業の強化  
→次世代ビジネスモデルの創出
- 3 新規領域の創出  
→有望な新規領域への投資

事業環境

- ・DXの進展
- ・新興競合企業の台頭

収益性

- 1 製品力の強化  
→先端技術活用による提供価値の変革
- 2 生産性の向上  
→グローバルベースでの価格競争力の強化
- 3 生産体制の強化  
→デジタル化によるものづくり改革の推進

経営環境

- ・M&Aによる海外グループ会社の増加
- ・アナログ業務の見直しとデジタル化の加速

経営基盤

- 1 グループ経営の再構築  
→グループガバナンスの強化
- 2 業務運営の変革  
→顧客志向での業務の効率化・付加価値向上
- 3 人事制度の改革  
→多様な人材マネジメント制度の採用

社会環境

- ・ステークホルダー・エンゲージメントの向上
- ・事業活動を通じた社会的責任の遂行

ブランド

- 1 提供価値の変革  
→TOP※イノベーションでスマート・ロジスティクスを提供
- 2 社会価値の創出  
→社会インフラを担う企業として仕組みの強化
- 3 社員意識の変革  
→グローバルベースでの企業カルチャーの醸成

※TOP: Time, Occasion, Place



イントラロジスティクス  
一般製造業・  
流通業向けシステム



クリーンルーム  
半導体・液晶生産  
ライン向けシステム



オートモーティブ  
自動車生産  
ライン向けシステム



エアポート  
空港向けシステム



オートウォッシュ  
洗車機・関連商品



電子機器

トータルサポート体制

ダイフクの強みは、コンサルティング、システム構築から、製造、工事、長期安定稼働を支えるアフターサービス、リニューアルまで、トータルサポート体制を構築していることです。

マテリアルハンドリングシステムを構成する主要な製品を自社で開発、生産することにより、世界に広がるお客さまにご満足いただける最適・最良のソリューションを提供し、お客さまの競争優位性を押し上げています。



## ▶ イントラロジスティクス

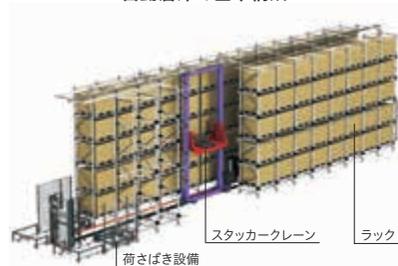
### 一般製造業・流通業向けシステム

eコマースを含む小売・卸、運輸・倉庫などの流通分野を柱に、食品・薬品・化学、機械など幅広い業種にまたがっています。アジア・北米への海外拡充を推進中です。

### 自動倉庫・荷揃えシステム

主要製品の自動倉庫は保管する製品の大きさ・重量によってパレット系、ケース系に分かれます。荷物の入出庫は、スタッカークレーンにより行います。

自動倉庫の基本構成



ユニット式パレット自動倉庫  
「コンパクトシステム」

### 自動倉庫導入のメリット

- ▶ 省人・省力化
- ▶ 在庫管理精度・出荷スピードの向上
- ▶ 保管スペースの有効活用
- ▶ 多様な環境に対応（冷凍・防爆）

### ケース自動倉庫

#### 「ファインスタッカー」

少量多品種の荷物を入庫、保管、出庫する自動倉庫。「必要なものを、必要な時に、必要なだけ」スピーディーかつ正確に供給でき、先入れ先出し管理、ロット指定出庫も可能です。



### 高能力ケース荷揃えシステム

#### 「シャトルラック M」

スタッカークレーンに代わり、移載機能付き台車（シャトル）と昇降機（リフト）によって荷物の一時保管だけでなく、仕分け、順列出庫も行います。



### デジタルピッキングシステム

#### 「デジタルピックシステム」

デジタル表示器の指示に従って、商品を摘み取っていくピースピッキングシステム。作業者の担当範囲が限定でき、紙のリスト方式に比べ作業効率が向上します。近年はロボットによるピッキングも採用されています。



### 高速自動仕分けシステム

#### 「サーフィンソーター」

高速かつ正確に不定形・長尺物など多様な荷姿に対応できる自動仕分けシステム。通販、卸売り、小売の物流センターで配送方面・店舗別の仕分け設備として豊富な納入実績があります。



### ラックシステム

#### 「移動ラック」

棚の移動により、保管スペースを有効活用でき、固定棚に比べて約2倍の格納効果が得られます。貸倉庫にも設置可能なレールレス方式や冷凍・冷蔵用、重量物用、長尺物用など、豊富なバリエーションがあります。



物流ソリューションサイト([www.daifuku.com/jp/solution/intralogistics](http://www.daifuku.com/jp/solution/intralogistics))  
業種別ソリューション、製品情報、導入プロセス、アフターサービスを分かりやすく紹介しています。

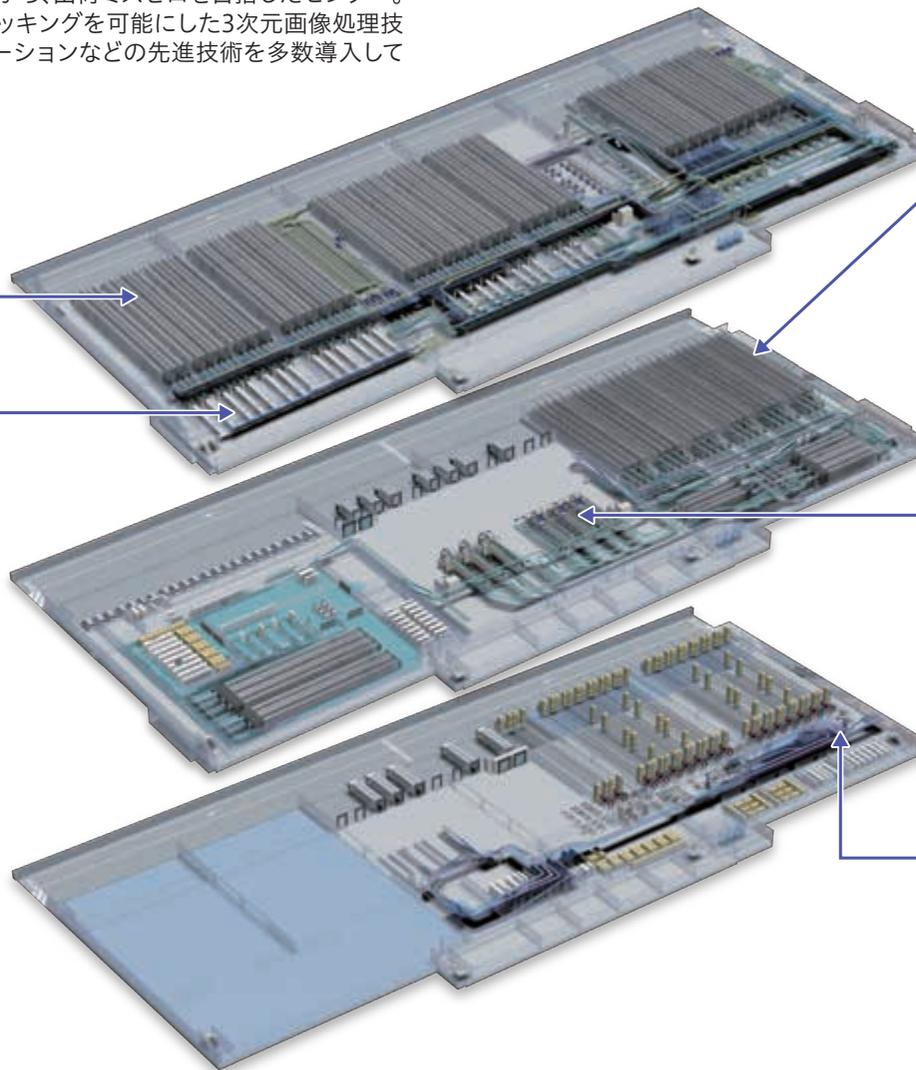
[ 納入事例 ]

先進技術を活用した最新物流センター

少子高齢化による労働力不足を見据えながら、出荷ミスゼロを目指したセンター。ロボットによる多品種・少量品のピッキングを可能にした3次元画像処理技術をはじめ、AIを活用した積付シミュレーションなどの先進技術を多数導入しています。



**ピッキング自動倉庫**  
ピッキングを行うロボットにタイムリーに商品を供給



**ケース自動倉庫**  
多種多様なサイズの段ボールケースを保管



**ケース積付ロボット**  
さまざまな荷姿のケースをスピーディーに積付け



**ピッキングロボット**  
サイズや重さが異なるピース品を正確にピッキング

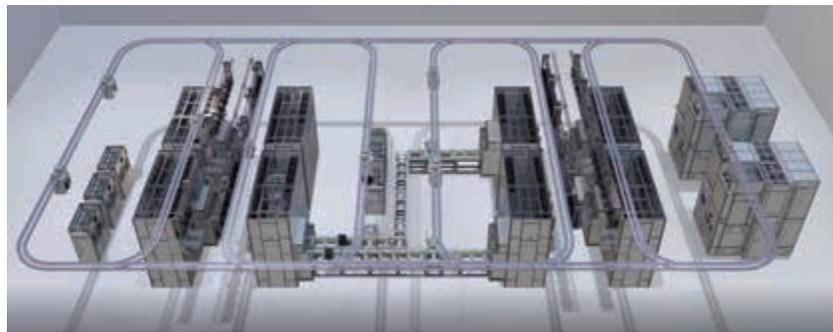


**デパレタイズロボット**  
自動倉庫から出庫されたパレット上の段ボールケースをピッキング

## ▶ クリーンルーム

### 半導体・液晶生産ライン向けシステム

半導体・液晶・有機EL工場にクリーンルーム専用の保管・搬送システムを提供しています。高度な技術が必要とされるため高いシェアを誇り、売上高の約9割がアジア・北米など海外です。半導体工場の走行レールは総延長10kmにおよび、数百台以上のウエハ搬送ビークルが24時間365日稼働しています。



### クリーンルーム用搬送システム 「クリーンウェイ」

密閉型カセットに格納したウエハを天井走行台車が数百におよぶ複雑な工程を搬送します。摩擦粉が発生しない非接触給電技術を活用しています。



### クリーンルーム用保管システム 「クリーンストッカー」

半導体生産工程で、仕掛品を一時保管する自動倉庫。半導体の微細化加工に対応した、ウエハの劣化を防ぐ「窒素パージシステム」も開発しました。



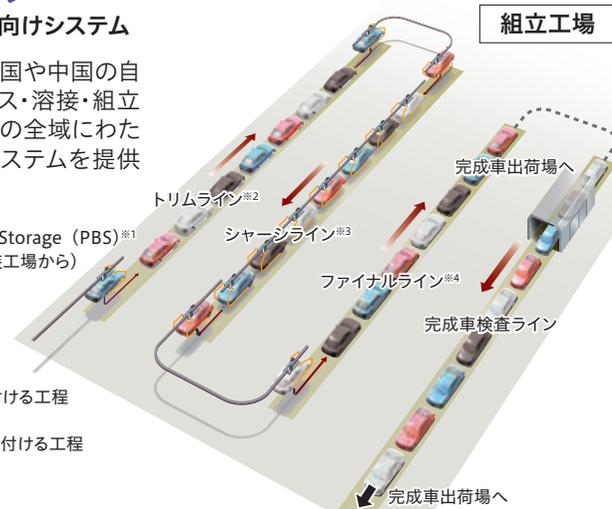
クリーンルーム事業部門サイト([www.daifuku.com/pro/cr/jp](http://www.daifuku.com/pro/cr/jp))  
半導体・液晶生産ライン向けシステムの各種製品・システムの動画を紹介しています。

## ▶ オートモーティブ

### 自動車生産ライン向けシステム

日系企業を中心に米国や中国の自動車メーカーにプレス・溶接・組立など自動車生産工程の全域にわたる、自動化・省人化システムを提供しています。

- ※1 PBS：  
塗装済み車体の保管
- ※2 トリムライン：  
各種部品を車体に取り付ける工程
- ※3 シャーシライン：  
足回り部品を車体に取り付ける工程
- ※4 ファイナルライン：  
完成車に仕上げる工程



### チェンレス搬送システム 「フレキシブルドライブシステム」

低速走行や振動の少ない安定した搬送が可能で、組立・加工ラインなどに最適な搬送システム。



### 部品物流向け一時保管・仕分けシステム 「SPDR(スパイダー)」

自動車組立用の部品が入った多様な種類のケースの入出庫・仕分けを自動化することができるシステム。生産計画に応じたタイムリーな供給ができます。



生産ライン最適化支援サービス特設サイト([www.daifuku.com/pro/aps/jp](http://www.daifuku.com/pro/aps/jp))  
自動車関連をはじめとする幅広い分野を対象に紹介しています。

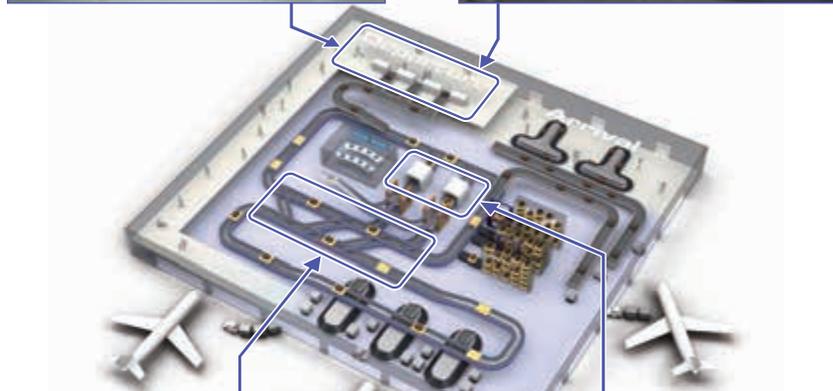
▶ **エアポート**  
**空港向けシステム**

空港建屋内の手荷物搬送・仕分けシステムをはじめ、セルフ手荷物チェックインシステムやセキュリティシステム、空港内設備監視など、幅広いソリューションを世界の空港に提供しています。

**セルフ手荷物チェックインシステム**



**空港情報管理システム**



**手荷物搬送・仕分けシステム**



**無人搬送式手荷物検査システム**

エアポート事業サイト([www.daifukuattec.com](http://www.daifukuattec.com)) (英文)

▶ **オートウォッシュ**  
**洗車機・関連商品**

主な製品は洗車機で、物流システムで培ったダイフクのモノづくりの技術・品質を応用しています。日本と韓国でトップシェアです。

**洗車機**

節水・静音タイプの門型洗車機やコンベヤ技術を応用した連続洗車機から、ドライブスルー機、トラックやバス、セミトレーラー用の大型洗車機など、さまざまな洗車機と洗車関連用品を提供。ガソリンスタンド、カーディーラー・整備工場、運送会社、コイン洗車場などで利用されています。



洗車機・関連商品の販売会社 **ダイフクプラスモア**のサイト([www.daifuku-carwash.jp](http://www.daifuku-carwash.jp))

▶ **電子機器(株式会社コンテック)**

株式会社コンテックが産業用コンピュータや、計測制御システム・ネットワーク関連製品などを開発・製造・販売。さらにIoT機器・ソリューション事業を展開しています。

**産業用コンピュータ製品**

高い信頼性、耐久性が求められるFA(ファクトリーオートメーション)環境に対応した産業用コンピュータ。近年ではデジタルサイネージ、医療、エネルギー市場など、ICT(Information and Communication Technology)化が進められている成長市場へFAで培った技術を応用し、あらゆる産業に役立つ製品を開発し、供給しています。



コンテックサイト([www.contec.com/jp](http://www.contec.com/jp))

▶ 知的財産への投資

サステナビリティアクションプラン(34ページ)では、技術開発と製品・サービスの提供でスマート社会に貢献することをテーマの一つとしています。マテリアリティとしては革新的技術開発、発明促進を特定し、KPIにそれぞれイノベーション投資額[研究開発費+デジタルトランスフォーメーション(DX)投資額]、特許登録件数(累計)を掲げています。

2022年度のイノベーション投資額は156億円でした。2023年3月末時点の特許登録件数(累計)は4,040件です。

▶ ダイフクにおける発明考案の推進

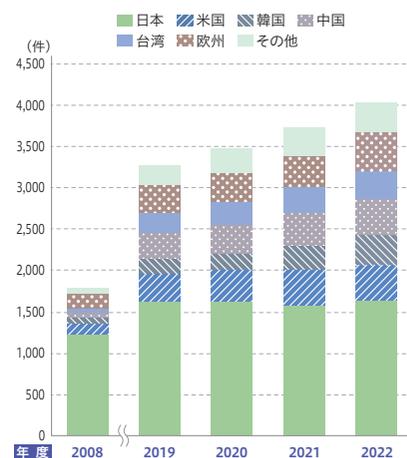
当社では、「発明考案の規程」を定めており、新規開発製品を中心に積極的な特許出願、権利化を図っています。特許は、出願してから登録されるまでに通常4～6年かかるため、出願特許の中から極めて優秀な発明考案に対して、「ダイフク発明大賞/発明賞」としてタイムリーな表彰を全社的にを行っています。

2022年度は、ダイフク発明大賞に1件、ダイフク発明賞に3件が選定されました。

▶ 海外の特許登録件数

近年は海外への特許出願数も増加傾向にあり、世界30カ国以上で特許を保有しています。特に、中国、韓国、台湾といったアジア圏での特許登録件数が増えています。

地域別特許登録件数推移



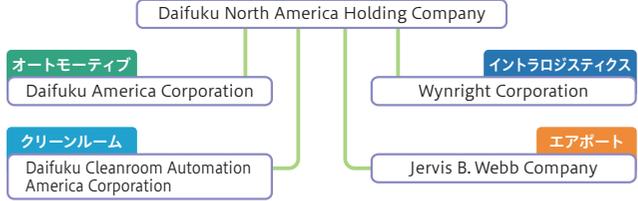
▶ 財務指標

(億円、網かけは過去最高値)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
受注高	5,033	4,831	4,510	5,890	7,374
受注残	3,584	3,979	3,750	4,518	5,874
売上高	4,594	4,436	4,739	5,122	6,019
営業利益	546	404	445	502	588
営業利益率(%)	11.9	9.1	9.4	9.8	9.8
経常利益	558	409	458	512	597
親会社株主に帰属する当期純利益	395	280	323	358	412
1株当たり当期純利益(円) <sup>※</sup>	104	74	85	94	109
1株当たり配当金(円)	90	75	80	90	110
総資産	4,099	4,108	4,454	4,833	5,515
純資産	2,228	2,373	2,620	2,920	3,323
ROA(%)	10.1	6.8	7.6	7.7	8.0
ROE(%)	19.5	12.4	13.2	13.1	13.2
自己資本比率(%)	53.3	56.7	57.7	60.2	60.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	85	137	382	566	200
投資活動によるキャッシュ・フロー	59	-147	-61	-98	-118
財務活動によるキャッシュ・フロー	-68	-183	-89	-275	-301
フリー・キャッシュ・フロー	144	-10	320	468	81
従業員数(人) (うち、海外現地法人)	9,857 (6,459)	10,863 (7,312)	11,697 (8,045)	12,436 (8,643)	13,020 (9,059)
設備投資額	79	132	74	115	168
減価償却費	45	56	64	73	85
研究開発費	86	89	91	107	104
有利子負債	400	334	351	263	114

※2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。2018年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

## ▶ セグメント別業績推移

報告セグメント	概要
ダイフク	マテリアルハンドリングシステム・機器、洗濯機などの製造販売の中核
コンテックグループ	産業用パソコン・インターフェイスボードなどの製造販売
DNAHCグループ	北米の事業を統括 
CFI	半導体メーカー向けのクリーンルーム内搬送装置の製造・販売
その他	上記以外の海外および国内子会社

(億円)

年度		2018	2019	2020	2021	2022
受注高	ダイフク	2,314	2,183	1,841	2,624	2,931
	コンテック	163	168	153	196	192
	DNAHC	1,094	1,367	1,194	1,351	2,110
	CFI	417	238	310	367	481
	その他	1,051	874	1,010	1,349	1,658
	計	5,033	4,831	4,510	5,890	7,374
売上高	ダイフク	2,025	2,044	1,993	2,250	2,388
	コンテック	163	163	162	157	186
	DNAHC	971	1,022	1,371	1,404	1,587
	CFI	342	326	305	286	426
	その他	1,108	939	896	1,048	1,409
	連結調整等	—	—	—	-25	20
計	4,594	4,436	4,739	5,122	6,019	
セグメント利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	ダイフク	337	186	260	286	340
	コンテック	16	16	11	12	9
	DNAHC	4	62	60	75	61
	CFI	25	25	27	20	29
	その他	57	25	23	37	56
	連結調整等	—	—	—	-73	-85
計	395	280	323	358	412	

(注) 2021年度から新収益認識に関する会計基準を適用

## ▶ 業種別売上高推移

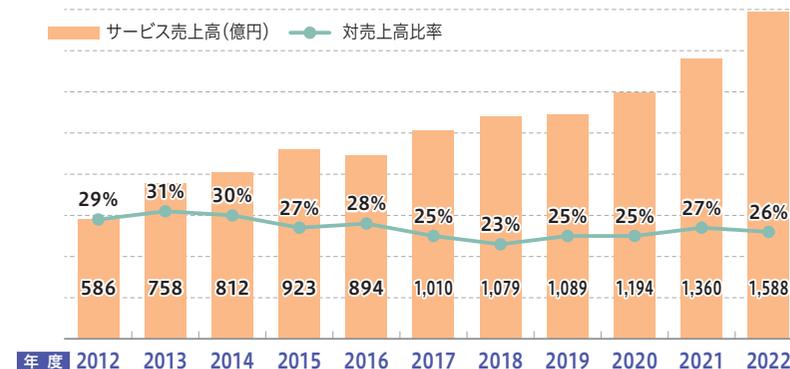
(億円)

業種	年度	2018	2019	2020	2021	2022
自動車及び自動車部品		686	684	801	590	654
エレクトロニクス		1,899	1,441	1,370	1,513	2,157
商業及び小売業		717	862	1,155	1,551	1,609
運輸・倉庫		290	285	235	328	304
機械		93	135	112	115	103
化学・薬品		141	153	183	176	246
食品		118	131	177	200	157
鉄鋼・非鉄金属		45	53	44	35	48
精密機器・印刷・事務機		64	114	87	62	64
空港		355	419	412	437	461
その他		180	153	158	136	190
連結調整等		—	—	—	-25	20
合計		4,594	4,436	4,739	5,122	6,019

(注) 2021年度から新収益認識に関する会計基準を適用

## ▶ サービス売上高

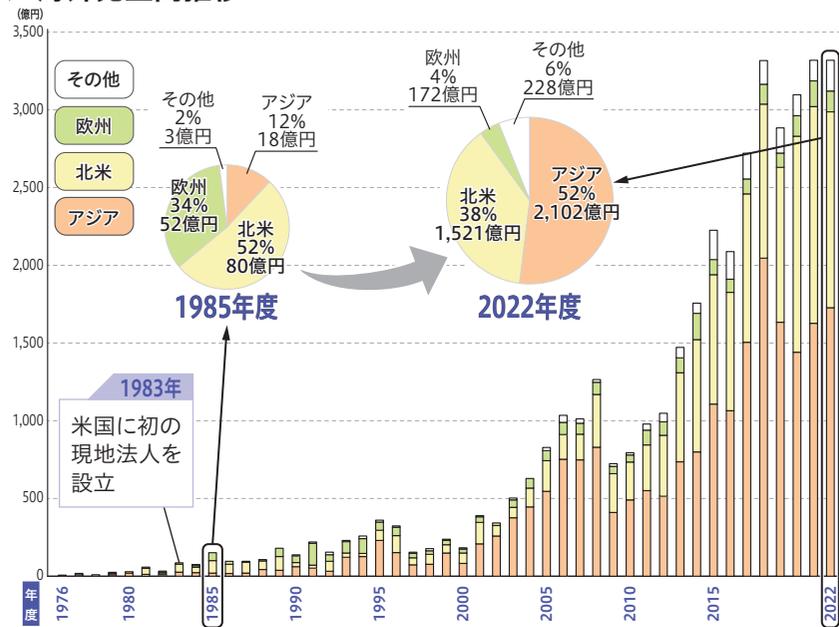
納入したシステム・製品を対象にした保守・メンテナンスなどによる売上高。幅広いサービスメニューを提供しており、安定的な収益につながっています。



## アフターサービス

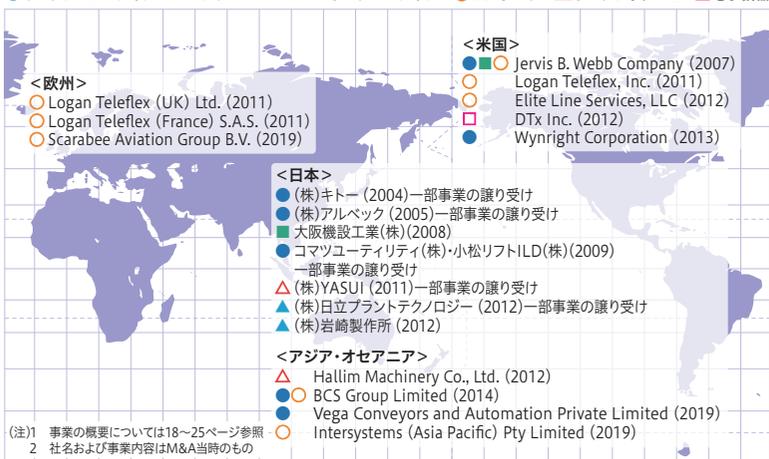
- ・定期点検
- ・システム保守契約
- ・安全技能教育
- ・ファシリティサービス
- ・トラブル対応
- ・パーツ供給
- ・リモートメンテナンス
- ・予約予報システム
- ・オンサイトサービス
- ・改造、リニューアル

## ▶ 海外売上高推移



## ▶ M&amp;Aによる事業領域拡大(2000年以降)

●インフラロジスティクス ▲グリーンルーム ■オートモーティブ ○エアポート △オートウォッシュ □電子機器



## ▶ 地域別売上高推移

## ● 日本

eコマース向けシステムの需要が拡大しており、大型の案件が増えています。自動車を含む製造業や、流通業への豊富な納入実績があり、サービス売上高比率が高い市場です。

## ● 北米

1983年に日系自動車メーカーの米国進出に合わせて現地法人を設立し、一般製造業・流通業向けおよび半導体生産ライン向けに事業の幅を広げました。2007年以降はM&Aにより空港向けシステムに進出。今後は、一般製造業・流通業向け、空港向けシステムの売上、収益性の向上を目指します。

## ● アジア

海外売上高の52%を占めています。従来は、半導体・液晶生産ライン向け(中国・韓国・台湾など)、自動車生産ライン向け(中国・韓国・タイ・インドネシアなど)が中心でしたが、アジアの経済発展により、今後は一般製造業・流通業向けの需要が期待されています。

## ● 欧州

一般製造業・流通業向けシステム、空港向けシステムの保守、メンテナンスサービスなどを行っています。

## ● 中南米

自動車生産ライン向けシステムが中心です。

(億円)

地域	年度	2018	2019	2020	2021	2022
日本		1,276	1,550	1,639	1,827	1,972
海外		3,318	2,886	3,099	3,320	4,025
北米		991	996	1,389	1,367	1,521
		2,046	1,634	1,440	1,643	2,102
	中国	1,113	702	595	572	608
	韓国	567	435	433	465	600
アジア	台湾	211	371	305	490	587
	その他	153	125	104	114	305
欧州		128	92	133	158	172
中南米		60	62	41	52	62
その他		92	99	93	99	166
連結調整等		—	—	—	-25	20
合計		4,594	4,436	4,739	5,122	6,019
海外売上高比率		72%	65%	65%	65%	67%

(注) 2021年度から新収益認識に関する会計基準を適用

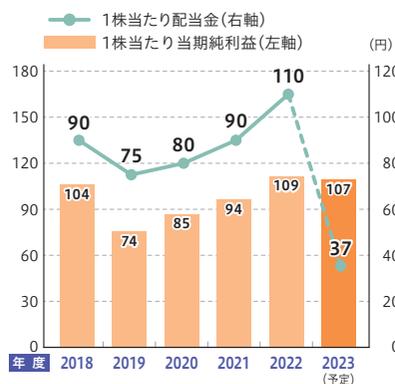
東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383)

単元株数:100株

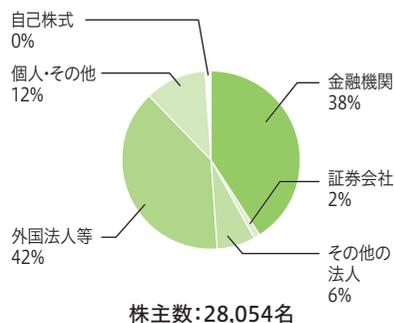
年度	2018	2019	2020	2021	2022
1株当たり当期純利益 <sup>※1</sup>	104	74	85	94	109
1株当たり純資産 <sup>※1</sup>	579	616	680	769	878
株価純資産倍率(倍) <sup>※1</sup>	3.3	3.7	5.3	3.8	2.8
株価収益率(倍) <sup>※1</sup>	18.3	30.7	42.2	30.9	22.4
1株当たり配当金	90	75	80	90	110
配当性向(%)	29	34	31	32	33
期末株価 <sup>※1</sup>	1,920	2,283	3,613	2,930	2,443
株主総利回り <sup>※2</sup> (%)	91.8	110.1	174.0	143.2	122.0
TOPIX(配当込み) <sup>※2</sup>	95.0	85.9	122.1	124.6	131.8
期末時価総額(億円) <sup>※1</sup>	7,292	8,672	13,724	11,129	9,279
期末発行済株式数(株) <sup>※1</sup>	379,830,231	379,830,231	379,830,231	379,830,231	379,830,231
資本金(億円)	318	318	318	318	318

※1 2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。2018年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。

※2 2017年度末を基準として算出



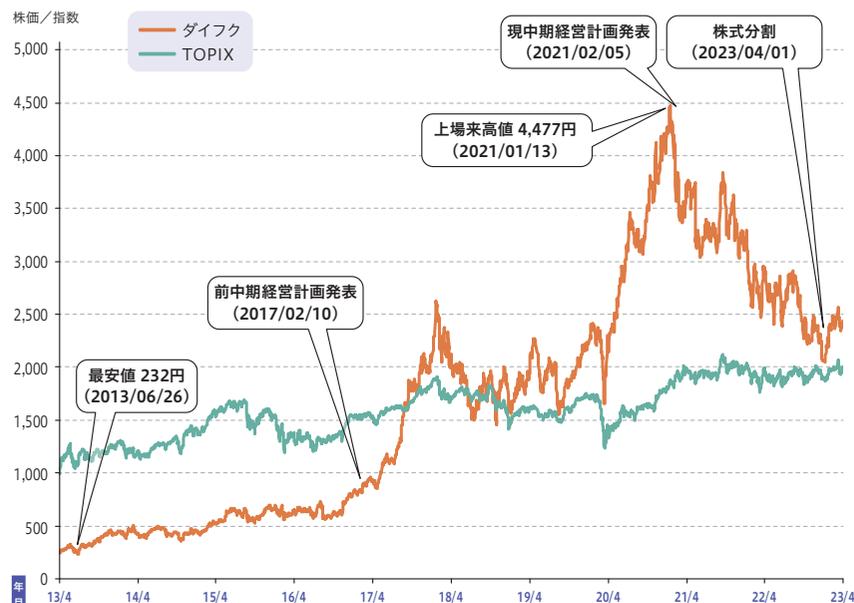
所有者別分布状況 (2023年3月31日現在)



▶ 利益配分に関する基本方針

ダイフクは、株主の皆さまに対する利益還元を最重要事項と位置付けています。現中期経営計画「Value Transformation 2023」では、2021~2023年度の3カ年平均で連結配当性向30%以上を目指します。

▶ 過去10年間の株価推移



(注) グラフは2023年4月1日の株式分割後の数値をもとに、従来のものから変更しています。

▶ IRイベント

ダイフクはIR活動の一環として「株主さま日に新たな館見学会」の開催や機関投資家・証券会社アナリスト向けにIR Dayを実施しています。



株主さま日に新たな館見学会



2022年に初めて実施したIR Day

▶ 持続可能な社会の実現に向けて

当社は、持続可能な社会の実現と企業価値向上を目指し、事業活動を通じて取り組むべき当社グループのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。また、重点的に取り組む5つのテーマのもと「サステナビリティアクションプラン(2021~2023年度)」を策定しています。

ダイフクが取り組む5つのテーマと18のマテリアリティ

テーマ	関連するSDGs	マテリアリティ
スマート社会への貢献	8 働きがいも経済成長も 9 産業と地域連携の発展をもつくり出す	・革新的技術開発、発明促進 ・新規領域の創出 ・スマート・ロジスティクスによるお客さまニーズへの対応
製品・サービス品質の維持向上	8 働きがいも経済成長も 12 つくる責任 つかう責任	・グローバル化による生産の最適地化 ・製品品質、製品安全の追求
経営基盤の強化	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう	・ガバナンスの強化 ・コンプライアンスの徹底 ・リスクマネジメント ・サプライチェーンでの責任ある調達 ・情報セキュリティの強化 ・透明性の高い情報開示と戦略的なコミュニケーションの実践
人間尊重	3 健全な心と健康な生活を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を推進しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国を超えて公正な社会を	・労働安全衛生の徹底 ・ダイバーシティ&インクルージョン ・働きがいのある職場環境の整備 ・人材の育成 ・人権配慮
事業を通じた環境貢献	6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなに 9 産業と地域連携の発展をもつくり出す 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を	・事業運営における環境配慮 ・環境配慮製品・サービスの拡充

「サステナビリティアクションプラン」の詳細はこちら  
[www.daifuku.com/jp/sustainability/management/plan](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/management/plan)



▶ ダイフク環境ビジョン2050(2023年5月改定)

当社は、2050年に「マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を実現します。」と掲げ、3つの重点領域と2030年の環境目標を設定しています。



2030年の環境目標

重点領域	KPI(実績評価指標)	目標
気候変動への対応	自社CO <sub>2</sub> 排出量(スコープ1+2)	50.4%削減(2018年度比)
	購入した製品・サービスに伴うCO <sub>2</sub> 排出量(スコープ3 カテゴリー1) 販売した製品の使用に伴うCO <sub>2</sub> 排出量(スコープ3 カテゴリー11)	30%削減 <sup>*1</sup> (2018年度比)
資源循環の促進	廃棄物の埋立率	1%未満
	水使用量売上高原単位 <sup>*2</sup>	30%削減(2018年度比)
自然との共生	主要拠点 <sup>*3</sup> における生物多様性保全活動実施率	100%
	サステナビリティアクション <sup>*4</sup> 年間延べ参加者数	3万人

※1 スコープ3のカテゴリ1およびカテゴリ11合わせたの目標 ※4 サステナビリティに関する啓発・教育のための当社独自のプログラム  
 ※2 水使用量(km<sup>3</sup>)/売上高(億円)  
 ※3 従業員数100人以上の拠点

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/management](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/management)

## ▶ 環境への取り組み

### 再生可能エネルギーの導入・拡大

2022年11月より、当社国内最大のマザー工場である滋賀事業所内で使用する電力を、すべて再生可能エネルギー由来へと切り替えました。CO<sub>2</sub>排出量に換算すると当社グループのスコープ1、2の約16%が削減(2018年比)されます。



ダイフクグループ各社においても、コンテック本社、中国(常熟工場)に太陽光発電システムを設置済みで、2023年から2024年にかけて中国(蘇州)、韓国、タイ、台湾、米国でも設置を計画しており、再生可能エネルギーの導入を拡大しています。

### ダイフクエコプロダクツ(環境配慮型製品)

2012年11月にダイフクエコプロダクツ制度を設けました。これは、当社独自の基準により、製品の環境性能を評価・認定する制度です。当社グループの全製品を対象に、省エネルギー・省資源・公害防止の観点から9つの項目についての性能とLCA<sup>\*</sup>の結果を評価しています。2023年5月現在、83製品を認定済みです。

※ LCA: Life Cycle Assessment



詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/products](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/products)

### 「DAIFUKUサステナビリティアクション」制度

2012年度にスタートした「DAIFUKUエコアクション」は、環境に対する従業員の自主的な学びを促進・活性化することを目的に、従業員の環境活動に対して「エコポイント」を発行、取得したポイントをエコ商品や震災復興商品などに交換できる取り組みです。発行したエコポイントに応じた金額を外部団体に寄付しています。2022年度は10,132名が参加し、52,979ポイントを発行しました。2023年度からは「DAIFUKUサステナビリティアクション」に名称を改め、環境活動に加えて社会貢献活動にも対象を広げて取り組んでいきます。

### 生物多様性保全活動「結いプロジェクト」(2014年度～)

緑に囲まれた約120万m<sup>2</sup>の滋賀事業所の敷地には、森・湿地・ため池などの環境に1,000種以上の在来種が生息し、そのうち環境省レッドリストおよび滋賀県レッドデータブックに掲載されている野生生物が70種以上確認されています。この豊かな自然を守るため、プロジェクトの一環として滋賀事業所内に保全地を整備し、生物の保全活動や環境貢献活動、従業員の自然と触れ合う機会づくりなどを行っています。



水質浄化に役立つヨシ刈り活動に多くの従業員が参加(滋賀県内の伊庭内湖・西の湖で実施)



絶滅危惧種のヤマトサンショウウオ 希少種のオグマサナエ

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/biodiversity](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/biodiversity)

### 社外評価

評価機関	2022年度末 評価・スコア
MSCI (アメリカ)	AA
FTSE Russell (イギリス)	3.5
Sustainalytics (オランダ)	21.4 (Medium Risk)
CDP Worldwide (イギリス) (気候変動質問状)	A-

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/external-evaluation](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/external-evaluation)

## ▶ 安全

“安全はすべてに優先する”をスローガンに掲げ、社長直轄の安全衛生管理本部主導のもと、安全意識の向上に取り組んでいます。

- ・安全パトロールの実施
- ・安全体感道場の運営
- ・主要サプライヤー向け安全衛生トップセミナー開催等



社長による現場安全パトロール

## ▶ 人材育成

人材育成を効果的に推進するため、グループ全体の人材育成方針を策定し、体系的かつ重点的な施策を展開しています。特に、事業のグローバル展開を支える人材の育成、マネジメントの強化を進めています。

- ・階層別研修
- ・キャリア開発研修
- ・グローバル人材育成制度
- ・選抜型研修
- ・海外従業員向け研修等

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-resources](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-resources)

## ▶ 健康

全社横断組織である「こころと体の健康づくり委員会」が健康課題の特定・目標設定や、各種健康イベント、外部講師による講演会、研修を実施しています。

- ・ラインケア／セルフケアセミナー
- ・職場でエクササイズ
- ・運動セミナー
- ・ウォーキングイベント等



滋賀事業所内の遊歩道を活用したランチウォーキング

## ▶ 人権方針

2021年10月に「ダイフクグループ人権方針」を策定しました。当社グループは、経営理念並びにグループ行動規範において「人権の尊重」をうたい、一人ひとりが自らの力を最大限発揮できる環境づくりに努めてきました。本方針に対する社員およびすべてのビジネスパートナーの皆さまのご理解と実践を通して、持続可能な社会の実現に貢献します。

詳細はこちら [www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-rights](http://www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-rights)

## ▶ ダイバーシティ&インクルージョン

当社は、経営理念に基づいた多様な人材の雇用と従業員の一人ひとりが「働きがい」と「働きやすさ」を感じ、いきいきと仕事ができる環境の整備を推進しています。

### 女性活躍

女性活躍推進に積極的に取り組むため、子育てと仕事の両立を図りながら能力を十分に発揮して成長することができる支援制度の拡充を行っています。今後は女性の管理職登用の取り組みをより強化していきます。

### 障がい者雇用機会の創出

当社は、法定の障がい者雇用率2.3%に対し、2.49%を達成しています(2023年4月1日現在)。マザー工場である滋賀事業所では、製造現場における障がい者雇用を促進するため、専門の部署を設置しています。県内の高等養護学校などと提携し、職場実習の受け入れや定期採用を行っています。また、当社独自の「採用前実習→会社適応→職場実習→職場適応」というステップを踏むカリキュラムを実施し、安心して働ける体制を構築しました。近年はデジタル化による職域拡大が進んでおり、製造現場での業務だけではなく、設計や管理などの事務的な業務に就くケースも増えてきています。



支援担当社員による組立指導

ダイフクグループのウェブサイト  
財務・非財務情報を公開しています。(下表)  
www.daifuku.com/jp

IR情報

www.daifuku.com/jp/ir

コーポレートガバナンス

www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance

サステナビリティ

www.daifuku.com/jp/sustainability



区分	名称	言語	
		日	英
IR情報	決算短信／決算説明会資料	✓	✓
	有価証券報告書	✓	✓
	株主総会招集通知	✓	✓
	株主通信	✓	
コーポレートガバナンス	Daifuku Report (統合報告書)	✓	✓
	コーポレートガバナンス報告書	✓	✓
	ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針	✓	✓
コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況	✓	✓
	会社情報	✓	✓
サステナビリティ	会社案内	✓	✓
	サステナビリティ情報	✓	✓
	ESGデータ、環境パフォーマンス、外部評価	✓	✓
サステナビリティ	サステナビリティ報告	✓	✓

株主総会招集通知



Daifuku Report



サステナビリティ報告



▶ 基本的な考え方

ダイフクグループは、監査役会設置会社という基本構造のもと、経営の透明性、経営監視・監督機能を高める制度の導入や拡充を機動的に進めています。コーポレートガバナンス・コードを踏まえた「ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針」および「コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況」を制定し、PDCAのサイクルを回して実効性を継続的に高めています。

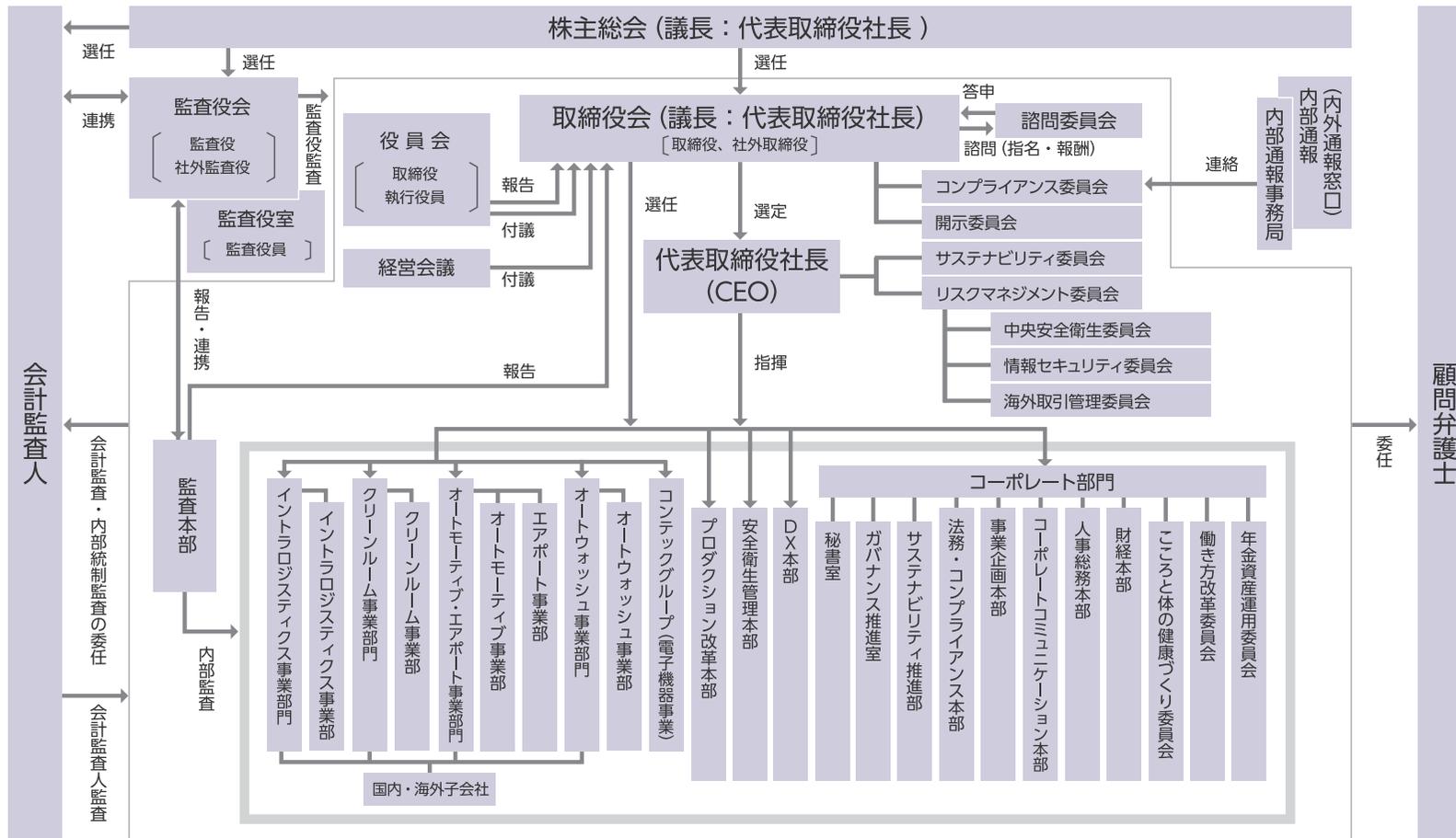
「ダイフクグループのコーポレートガバナンスに対する基本的方針」および「コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況」  
(www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance)

▶ コーポレートガバナンス体制の概要 (2023年6月23日現在)

組織形態	監査役会設置会社
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	代表取締役社長(CEO)
取締役の人数	10名(内、社外5名)
取締役会開催回数(2022年度)	定例12回、臨時5回
任意の委員会の有無	有り(指名、報酬に係る諮問委員会)
諮問委員会の構成員・議長	構成員:代表取締役1名以上、社外取締役1名以上を含めた3名以上 議長:社外取締役 回数:年3回以上
監査役的人数	4名(内、社外3名)
監査役会開催回数(2022年度)	定例8回、臨時1回
社外取締役および社外監査役の独立性判断基準	当社の基準を定め、株主総会招集通知などで開示しています。
取締役会の実効性評価	取締役・監査役へのアンケート調査を外部機関に委託。概要をコーポレートガバナンス報告書などで開示しています。
中長期業績に連動する取締役報酬	業績連動型の株式報酬制度である株式給付信託(BBT: Board Benefit Trust)を導入しています。

▶ コーポレートガバナンス体制図

2023年4月更新



2023年度の主な組織改定ポイント

- 「グループチーフオフィサー」を設置し、代表取締役社長(CEO)の権限委譲と移譲後の責任分担を明確にすることで、ガバナンス強化・意思決定のスピード化を図ります。新設した役職は以下の通りです。  
CFO (Chief Financial Officer): 最高財務責任者  
CHRO (Chief Human Resource Officer): 最高人事責任者

- グループのサプライチェーン管理ならびにもものづくり改革の推進による生産性向上と生産体制の強化を図るために「プロダクション改革本部」を新設しました。  
CIO (Chief Information Officer): 最高情報責任者  
CPO (Chief Production Officer): 最高生産責任者  
CTO (Chief Technology Officer): 最高技術・R&D責任者

▶ 社内取締役



代表取締役社長  
社長執行役員  
下代 博



取締役  
専務執行役員  
クリーンルーム事業部門長  
DNAHC President and CEO  
佐藤 誠治



取締役  
常務執行役員  
滋賀事業所長  
安全衛生管理本部長  
林 智亮



取締役  
常務執行役員  
インフラロジスティクス  
事業部門長  
信田 浩志



取締役 (新任)  
常務執行役員  
CHRO(Chief Human Resource Officer)  
コーポレート部門長  
田久保 秀明

▶ 社外取締役



取締役  
小澤 義昭



取締役  
酒井 峰夫



取締役  
加藤 格



取締役  
金子 圭子



取締役 (新任)  
Gideon Franklin  
ギディオン・フランクリン

▶ 監査役



常勤監査役  
齋藤 司



社外監査役  
相原 亮介



社外監査役  
宮島 司



社外監査役  
和田 信雄

### ▶ 取締役会の構成

当社は、経営環境の変化や当社グループの経営計画等に基づき、取締役会の多様性について継続的に検討していきます。

#### 取締役会のスキル・マトリックス

	専門性・経験						多様性				
	企業経営	テクノロジー	財務・会計	法務・リスクマネジメント	営業・マーケティング	グローバル	ESG	独立性	性別	年齢	主な経歴
下代博	●			●	●	●	●		男性	65	当社グループ
佐藤誠治	●				●	●			男性	63	当社グループ
林智亮	●	●				●			男性	64	当社グループ
信田浩志	●	●				●			男性	63	当社グループ
田久保秀明	●		●	●		●	●		男性	62	当社グループ
小澤義昭			●			●	●	✓	男性	69	会計事務所・大学・企業社外監査役および補欠取締役（監査等委員）
酒井峰夫	●		●			●	●	✓	男性	72	商社・IT企業
加藤格	●			●		●	●	✓	男性	68	商社・エネルギー開発企業・大学
金子圭子				●		●	●	✓	女性	55	商社・大学・法律事務所・企業監査役および社外取締役
ギティオン・フランクリン	●		●			●	●	✓	男性	60	金融・M&A・企業経営および社外取締役

- (注)1 各人の有するスキルのうち主なもの最大5つに「●」印をつけています。  
 2 上記一覧表は、各人の有するすべての知識・経験・能力を表すものではありません。

### ▶ 専務執行役員

三品 康久	CPO (Chief Production Officer) CIO (Chief Information Officer) プロダクション改革本部長 DX本部長
-------	--

### ▶ 常務執行役員

岸田 明彦	大福(中国)有限公司 董事長
堀場 義行	オートウォッシュ事業部門長 オートウォッシュ事業部長 株式会社ダイフクプラスモア 代表取締役社長
上本 貴也	オートモーティブ・エアポート事業部門長 エアポート事業部長
権藤 卓也	CTO (Chief Technology Officer) イントラロジスティクス事業部エンジニアリング本部長
西村 章彦	オートモーティブ・エアポート事業部門副事業部門長 オートモーティブ事業部長 オートモーティブ事業部営業・サービス統括本部長
鳥谷 則仁	イントラロジスティクス事業部長 イントラロジスティクス事業部営業本部長
日比 徹也	CFO (Chief Financial Officer) コーポレート部門副部門長 財経本部長

### ▶ 執行役員

喜多 浩明	Daifuku Oceania Limited CEO
山本 誠二	イントラロジスティクス事業部工事・サービス本部長
前田 勉	オートモーティブ事業部国内市場BU <sup>※</sup> 本部長
寺井 友章	クリーンルーム事業部長 クリーンルーム事業部生産本部長
園田 篤	クリーンルーム事業部副事業部長 クリーンルーム事業部営業本部長 小牧事業所長
秋葉 博文	コーポレートコミュニケーション本部長

※ BU = Business Unit

### ▶ 監査役員

高橋 利勝	監査役室長
-------	-------

25の国と地域で事業を展開



ダイフクグループの生産拠点 (注) 1～20の社名・所在地は49～51ページ参照



主要事業所

<p><b>本社(大阪)</b>                  〒555-0012                  大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11                  TEL:06-6472-1261(代)</p>	<p><b>東京本社</b>                  〒105-0022                  東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング                  TEL:03-6721-3501(代)</p>
<p><b>滋賀事業所 1</b>                  〒529-1692                  滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225                  TEL:0748-53-0321(代)</p>	<p><b>小牧事業所 2</b>                  〒485-8653                  愛知県小牧市小牧原4-103                  TEL:0568-74-1500(代)</p>

営業・サービス拠点 全国約60カ所

海外支店

チェコ支店	サントペテルブルク支店
ドイツ支店	イスタンブール支店
フィリピン支店	イギリス支店

国内子会社

株式会社コンテック	株式会社岩崎製作所
株式会社ダイフクプラスモア	Daifuku Airport Technologies Japan
株式会社ダイフクビジネスサービス	株式会社
株式会社ダイフク・マニュファクチャ	株式会社スカラベアービエーション
リング・テクノロジー	グループ・ジャパン

## 北中米

## Daifuku North America Holding Company

Novi, MI, U.S.A.

## Daifuku America Corporation 3

- **Main Office & Plant**  
Reynoldsburg, OH, U.S.A.
- **Carlisle Forging Plant**  
South Carolina
- **Other offices**  
Indiana, Kentucky, Michigan, Tennessee

## Daifuku Cleanroom Automation America Corporation

- **Main Office**: Chandler, AZ, U.S.A.
- **Test Center & Office**: Oregon
- **Other office**: Texas

## Jervis B. Webb Company 4

- **World Headquarters**  
Novi, MI, U.S.A.
- **Northern Michigan Manufacturing Plant**  
Michigan

## Elite Line Services, Inc.

Carrollton, TX, U.S.A.

## Wynright Corporation 5

- **World Headquarters**  
Hobart, IN, U.S.A.
- **Innovation Center**: Illinois
- **Other offices**  
Florida, Indiana, Kentucky  
Michigan, Utah
- **Plants**: Indiana, Texas

## Contec Americas Inc. 6

- **Main Office**: Melbourne, FL, U.S.A.
- **Other office**: Illinois

## Daifuku Canada Inc.

Mississauga, Ontario, Canada

## Jervis B. Webb Company of Canada, Ltd. 7

Hamilton, Ontario, Canada

## Daifuku Airport Technologies Canada Inc.

Montréal, QC, Canada

## Elite Line Services Ltd.

Toronto, Ontario, Canada

## Daifuku de México, S.A. de C.V.

Querétaro, Qro., México

## 欧州

## Daifuku Europe GmbH

- **Main Office**  
Moenchengladbach, Germany
- **Denmark Branch**: Copenhagen, Denmark
- **Sweden Branch**: Helsingborg, Sweden
- **UK Branch**: Milton Keynes, U.K.

## Jervis B. Webb Company, Ltd.

Milton Keynes, U.K.

## Daifuku Logan Ltd. 8

- **Main Office**: Hull, U.K.
- **France Branch**: Alfortville, France

## Scarabee Aviation Group B.V.

Hoofddorp, The Netherlands

## アジア・オセアニア

## BCS Airport Systems Pty. Ltd.

Hallam, VIC, Australia

## BCS Logistics Solutions Pty. Ltd.

Hallam, VIC, Australia

## BCS Infrastructure Support Pty. Ltd.

Hallam, VIC, Australia

## Intersystems (Asia Pacific) Pty. Ltd.

Hallam, VIC, Australia

## 大福 (中国) 有限公司

中国・上海

## 大福 (中国) 自動化設備有限公司 9

- **本社**: 中国・江蘇省常熟
- **分公司**: 北京、長春、重慶、広州、天津、武漢
- **事務所**: 福州、南沙、泰達、鄭州

## 大福 (中国) 物流設備有限公司 10

- **本社**: 中国・上海松江
- **分公司**: 北京、広州、深圳
- **事務所**: 長沙、成都、重慶、杭州、虹橋、南京、寧波、蘇州、太倉、天津、武漢、西安

## 大福自動搬送設備 (蘇州) 有限公司 11

- **本社**: 中国・江蘇省蘇州
- **分公司**: 深圳、西安

## 康泰克 (上海) 信息科技有限公司

- **本社**: 中国・上海
- **分公司**: 北京

## Daifuku India Private Limited

- **Main Office**: Haryana
- **Other offices**: Bengaluru, Gujarat

## ForgePro India Private Limited 12

Karnataka, India

## Daifuku Intralogistics India Private Limited 13

- **Main Office**: Hyderabad, India
- **Other office**: Mumbai

## P.T. Daifuku Indonesia

- **Main Office**: Jakarta, Indonesia
- **Deltamas Office**: Bekasi

## Daifuku Korea Co., Ltd. 14

- **Main Office / R&D Center**  
Incheon, Korea
- **Plant**: Incheon

## Clean Factomation, Inc. 15

- **Main Office**  
Gyeonggi-do, Korea
- **Asan Plant**  
Chungcheongnam-do, Korea

## Hallim Machinery Co., Ltd. 16

- **Main Office & Plant**  
Gyeonggi-do, Korea
- **Other offices**  
Busan, Daegu, Daejeon, Gwangju, Seoul

## Daifuku (Malaysia) Sdn. Bhd.

Selangor D.E., Malaysia

## BCS Integration Solutions Sdn. Bhd. 17

- **Main Office**  
Kuala Lumpur, Malaysia
- **Factory**  
Negeri Sembilan, Malaysia

## Daifuku Oceania Limited

- **Main Office**: Auckland, NZ
- **Other offices**  
Australia, Canada, Malaysia

## Daifuku Mechatronics (Singapore) Pte. Ltd.

Techplace 1, Singapore

## Singapore Contec Pte. Ltd.

Techplace 1, Singapore

## 台灣大福高科技設備股份有限公司 18

- **本社・工場**: 台湾・台南
- **支社**: 新竹
- **工場**: 台中

## 台灣康泰克股份有限公司 19

台湾・新北

## Daifuku (Thailand) Limited 20

- **Main Office & Plant (Pinthong)**  
Chonburi, Thailand
- **Other office**: Bangkok
- **Chonburi Plant**: Chonburi

## Daifuku Intralogistics Vietnam Company Limited

- **Main Office**: Ho Chi Minh City, Vietnam
- **Other office**: Hanoi

ダイフクが加入する主な団体

日本物流システム機器協会 (JIMH)	<a href="http://www.jimh.or.jp">www.jimh.or.jp</a>
日本ロジスティクスシステム協会 (JILS) ・年に一度「物流システム機器生産出荷統計」を調査・公表しています。 (本統計は、輸入品やサービスを含みません)	<a href="http://www1.logistics.or.jp">www1.logistics.or.jp</a>

世界のマテリアルハンドリングシステム サプライヤー トップ20

2022年 順位	会社名 ( )内は親会社	2022年売上高 (100万米ドル)	本社所在地
1	ダイフク	4,549	日本
2	Dematic(KION Group)	4,063	米国(ドイツ)
3	Honeywell Intelligrated	2,336	米国
4	Vanderlande(豊田自動織機)	2,200	オランダ(日本)
5	Knapp	2,139	オーストリア
6	FORTNA	2,100	米国
7	村田機械	1,970	日本
8	SSI Schaefer Group	1,932	ドイツ
9	Interlake Mecalux(MECALUX)	1,576	米国(スペイン)
10	WITRON Integrated Logistics	1,200	ドイツ
11	Beumer Group	1,070	ドイツ
12	stow Group	1,043	ベルギー
13	TGW Logistics Group	991	オーストリア
14	Swisslog(KUKA)	827	スイス(ドイツ)
15	Bastian Solutions(豊田自動織機)	775	米国(日本)
16	Fives Intralogistics(Fives Group)	692	日本(フランス)
17	Kardex	606	スイス
18	Symbotic	593	米国
19	AutoStore	583	ノルウェー
20	Element Logic	527	ノルウェー

出典：米国 Modern Materials Handling 誌

世界最大級のマテハン・ロジスティクス体験型総合展示場「日に新たな館」。自社で開発・製造した最先端のマテハンシステムのほか、ロジスティクス関連企業の製品も展示しています。

1994年に開館。これまで、世界約90の国と地域から延べ約51万人のお客さまにご来館いただいています。最新システム・機器の大規模な入れ替えを行い、2022年6月にリニューアルオープンしました。

専任スタッフが製品の機能・特長のほか、納入事例や現場での活用方法などをご紹介します(日本語、英語、中国語、韓国語に対応)。

# 日に新たな館

〒529-1692  
滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225  
ダイフク滋賀事業所内

**アクセス**

JR米原駅、JR近江八幡駅から  
シャトルバス(要予約)



**施設概要**

- ・建物面積 6,049m<sup>2</sup>
- ・延べ床面積 1万9,482m<sup>2</sup>
- ・開館日 月～金曜日(祝祭日を除く)
- ・開館時間 AM9:00～PM4:30
- ・見学時間 AM9:50～PM3:15(時間帯によるコース制)  
(注)開館日、開館時間、見学時間は変更になる場合があります。
- ・お申込み ウェブサイトをご利用ください(完全予約制)。  
[www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan](http://www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan)  
(注)会社・団体を対象とした展示場のため、個人、同業者の来館はご遠慮いただいています。

